

1 全国の動き

(1)概 観

平成22年10月19日発表の月例経済報告等により、我が国経済の最近の動向をみると、個人消費は、持ち直している。住宅建設は、持ち直している。設備投資は、持ち直している。公共投資は、総じて低調に推移している。輸出は、このところ弱含んでいる。輸入は、緩やかに持ち直している。生産は、弱含んでいる。企業収益は、改善している。また、企業の業況判断は、改善している。ただし、先行きについては慎重な見方が広がっている。倒産件数は、おおむね横ばいとなっている。雇用情勢は、依然として厳しいものの、このところ持ち直しの動きがみられる。物価の動向をみると、国内企業物価は、このところ横ばいとなっている。消費者物価は、緩やかな下落が続いている。

最近の金融情勢をみると、株価（日経平均株価）は、為替相場の変動等を背景に、9,200円台から9,600円台まで上昇した後、9,500円台で推移している。対米ドル円レートは、83円台から85円台まで円安方向で推移した後、81円台まで円高方向で推移している。短期金利についてみると、無担保コールレート（オーバーナイト物）は、0.1%付近で推移している。長期金利は、日本銀行による追加的な金融緩和等を背景に、1.1%台半ばから0.8%台半ばまで低下した後、0.8%台後半で推移している。

こうしたことから最近の我が国の景気は、このところ足踏み状態となっている。また、失業率が高水準にあるなど厳しい状況にある。

先行きについては、当面は弱めの動きも見込まれるものの、海外経済の改善や各種の政策効果などを背景に、景気が持ち直していくことが期待される。一方、海外景気の下振れ懸念や為替レート・株価の変動などにより、景気がさらに下押しされるリスクが存在する。また、デフレの影響や、雇用情勢の悪化懸念が依然残っていることにも注意が必要である。

政府は、「新成長戦略」に基づき、日本経済を本格的な回復軌道に乗せるとともにデフレを終結させるよう政策運営を行う。

政府は、デフレからの脱却を喫緊の課題と位置づけ、日本銀行と一体となって、強力かつ総合的な政策努力を行う。日本銀行に対しては、引き続き、政府と緊密な情報交換・連携を保ちつつ、適切かつ機動的な金融政策の運営によって経済を下支えするよう期待する。

日本銀行は、金融緩和を一段と強力に推進するため「包括的な金融緩和政策」を10月5日に決定した。

政府は、現下の厳しい経済情勢や先行き悪化懸念を踏まえ、補正予算編成を含む「円高・デフレ対応のための緊急総合経済対策」を10月8日に決定した。

| 主な指標 | 指数等 | 前月（期）比 | 前年同月比 |
|------------------|----------|----------|----------|
| 実質国内総生産（4～6月速報） | 540.1兆円 | 0.4% | （年率）1.5% |
| 鉱工業生産指数（9月速報） | 92.5 | ▲ 1.9% | 11.1% |
| 鉱工業在庫指数（9月速報） | 97.7 | 0.2% | 3.5% |
| 大型小売店販売額（9月速報） | 14,781億円 | （全店ベース） | ▲ 1.1% |
| 新設住宅着工戸数（9月） | 71,998戸 | 0.0% | 17.7% |
| 国内企業物価指数（9月速報） | 102.8 | 0.0% | ▲ 0.1% |
| 消費者物価指数（9月総合） | 99.8 | 0.3% | ▲ 0.6% |
| 有効求人倍率（9月・季節調整値） | 0.55倍 | 0.01ポイント | 0.12ポイント |

※指数は、すべて平成17年=100

※鉱工業生産指数及び鉱工業在庫指数の前月（期）比は季節調整済指数、前年同月比は原指数のもの

(2) 国内需要

個人消費は、持ち直している。家計調査でみると、実質消費支出は、二人以上の世帯では8月は前年同月比2.3%増の後、9月は同0.3%増となった。小売売上面からみると、9月の大型小売店（百貨店・スーパー等）販売額（速報値）は、1兆4,781億円で、前年同月比1.1%減（既存店は1.7%減）となった。全国百貨店販売額は、8月は前年同月比5.0%減（既存店は3.0%減）の後、9月は同6.4%減（既存店は5.0%減）となった。スーパー販売額は、8月は前年同月比0.4%増（既存店は1.3%減）の後、9月は同1.8%増（既存店は0.1%増）となった。耐久消費財の販売をみると、乗用車（軽を含む。）の新車新規登録台数は、9月は前年同月比3.2%減の後、10月（速報値）は同25.9%減となった。

住宅建設は、持ち直している。新設住宅着工戸数をみると、総戸数は8月に前年同月比20.5%増の後、9月は同17.7%増の71,998戸となり、内訳では持家が前年同月比12.9%増、貸家は同2.2%増、分譲住宅は同58.9%増となった。

設備投資は、持ち直している。日本銀行「全国企業短期経済観測調査」（22年9月調査）により設備投資の年度計画をみると、22年度設備投資計画は、大企業では製造業で前年度比4.0%増、非製造業で同1.6%増となっており、全産業では同2.4%増となっている。中小企業では、製造業で前年度比0.5%減、非製造業で同21.8%減となっており、全産業では同15.0%減となっている。

公共投資は、総じて低調に推移している。公共工事前払金保証事業統計（北海道建設業信用保証㈱、東日本建設業保証㈱、西日本建設業保証㈱調べ）で公共工事請負金額をみると、8月は9,216億24百万円で前年同月比8.4%減の後、9月は1兆1,620億32百万円で同18.8%減となった。

(3) 生産・雇用

鉱工業生産の動きをみると、生産は、弱含んでいる。鉱工業生産指数（平成17年=100、季節調整済）は、8月に94.3となった後、9月（速報）は92.5と前月比1.9%低下（前年同月比、原指数11.1%上昇）となった。鉱工業生産者出荷指数は、8月に95.7となった後、9月（速報）は95.0と前月比0.7%低下（前年同月比、原指数12.3%上昇）となった。鉱工業生産者製品在庫指数は、8月に97.5となった後、9月（速報）は97.7と前月比0.2%上昇（前年同月比、原指数3.5%上昇）となった。また、鉱工業生産者製品在庫率指数は、8月は107.4となった後、9月（速報）は108.8と前月比1.3%上昇（前年同月比、原指数10.0%低下）となった。

雇用情勢は、依然として厳しいものの、このところ持ち直しの動きがみられる。有効求人

倍率（季節調整値）は、8月0.54倍の後、9月は0.55倍となった。完全失業者数は、9月は340万人で、完全失業率（季節調整値）は、8月5.1%の後、9月は5.0%となった。所定外労働時間指数（平成17年＝100、製造業：事業所規模30人以上）は、8月は前年同月比28.8%増の後、9月（速報）は前年同月比20.4%増となった。現金給与総額（製造業：事業所規模30人以上）は、8月は前年同月比3.9%増の後、9月（速報）は同2.7%増となった。

企業の動向をみると、企業収益は、改善している。また、企業の業況判断は、改善している。ただし、先行きについては慎重な見方が広がっている。前記「全国企業短期経済観測調査」（22年9月調査）によると、企業全体（全産業）では、経常利益は22年度上期には前年同期比51.1%増益の後、22年度下期には同8.0%増益が見込まれている。産業別にみると、製造業では22年度上期に前年同期比3.4倍の後、22年度下期に同4.8%の増益が見込まれている。また、非製造業では22年度上期に前年同期比9.0%増益の後、22年度下期に同10.3%の増益が見込まれている。

こうしたなかで企業の業況判断をみると、大企業製造業、大企業非製造業の業況判断が6四半期連続の改善となるとともに、中小企業製造業、中小企業非製造業の業況判断は5四半期連続の改善となった。ただし、先行きについては慎重な見方が広がっている。

倒産件数は、おおむね横ばいとなっている。企業倒産（負債額1,000万円以上、東京商工リサーチ調べ）の状況を見ると、9月は1,102件（前年同月比4.6%減）、負債総額1兆4,180億25百万円（同359.2%増）となっている。

(4) 物価

国内企業物価は、このところ横ばいとなっている。消費者物価は、緩やかな下落が続いている。国内企業物価指数は、8月は前月と同水準（前年同月と同水準）の後、9月（速報値）も前月と同水準（前年同月比0.1%下落）となった。9月の消費者物価指数（全国）をみると、総合指数は前月比0.3%上昇（前年同月比0.6%下落）となった。また、生鮮食品を除く総合指数は、前月と同水準（前年同月比1.1%下落）となった。次に、10月の動きを東京都区部中旬速報値でみると、総合指数は前月比0.5%上昇（前年同月比0.3%上昇）となった。また、生鮮食品を除く総合指数は、前月比0.4%上昇（前年同月比0.5%下落）となった。

(5) 金融・財政

最近の金融情勢をみると、長期金利は、日本銀行による追加的な金融緩和等を背景に、1.1%台半ばから0.8%台半ばまで低下した後、0.8%台後半で推移している。企業金融については、企業の資金繰り状況は改善しているものの、中小企業を中心に依然厳しさがみられる。短期金利についてみると、無担保コールレート（オーバーナイト物）は、0.1%付近で推移している。

株価（日経平均株価）は、為替相場の変動等を背景に、9,200円台から9,600円台まで上昇した後、9,500円台で推移している。

マネーストック（M2）は、9月（速報）は、前年同月比2.8%の伸びとなっている。

(6) その他の動き

8月の景気動向指数の概要（内閣府発表）

内閣府が10月20日に発表した「8月の景気動向指数（C I）」（速報からの改訂状況）によると、数か月先の景気の先行きを占う先行指数は99.5、景気の現況を示す一致指数は103.3、半年から1年遅行する遅行指数は87.4となった。

2 富山県の動き

(1)概況

本県経済をみると、個人消費は、弱含んでいる。住宅建設は、持ち直している。設備投資は、持ち直しつつある。公共投資は、底堅い動きとなっている。生産は、緩やかに持ち直している。雇用情勢は、有効求人倍率が0.7倍前半で推移するなど、依然として厳しい状況にある。企業倒産の件数は二桁台で推移し、負債総額は前年同月に比べ増加している。消費者物価は、緩やかな下落が続いている。以上のように最近の本県の景気は、依然厳しい状況にあるなかで引き続き持ち直してきているが、このところその動きが緩やかになっている。先行きについては、企業収益が改善するなかで景気が自律的な回復へ向かうことが期待されるが、世界景気の下振れ懸念や円高の進行・長期化等により、景気がさらに下押しされるリスクが存在する。また、デフレ状況や雇用情勢の動向等が県内経済に与える影響にも留意する必要がある。

県としては、当面、社会資本整備の推進、金融対策などの中小企業支援、緊急雇用創出臨時特例基金を活用したさらなる雇用機会の創出、離職者等を対象とした公共職業訓練の拡充等を内容とする経済・雇用対策に取り組むとともに、バイオ、ロボット、新エネルギー等の新産業の創出に向けたチャレンジに取り組むこととしている。

| 主な指標 | 指数等 | 前月（期）比 | 前年同月比 |
|-------------------|----------|-----------------------|-----------------------|
| 鉱工業生産指数（8月） | 91.1 | 4.4% | 25.5% |
| 鉱工業在庫指数（8月） | 84.5 | 2.3% | ▲ 7.0% |
| 大型小売店販売額（9月速報） | 9,332百万円 | （全店ベース） | 1.1% |
| 新設住宅着工戸数（9月） | 443戸 | 8.0% | 22.0% |
| 消費者物価指数（9月・富山市） | 98.4 | ▲ 0.1% | ▲ 1.3% |
| 常用雇用指数（8月・全産業） | 112.3 | 0.0% | 2.4% |
| 所定外労働時間指数（8月・製造業） | 63.0 | 1.6% | 41.6% |
| 有効求人倍率（9月・季節調整値） | 0.71倍 | 0.00 ^ホ イント | 0.23 ^ホ イント |

※指数は、すべて平成17年=100

※常用雇用指数及び所定外労働時間指数は、規模30人以上の事業所

(2)個人消費

個人消費は、弱含んでいる。大型小売店（百貨店・スーパー等）販売額をみると、8月は105億26百万円で前年同月比0.5%増（既存店も0.5%増）の後、9月（速報）は93億32百万円で前年同月比1.1%増（既存店も1.1%増）となった。また、耐久消費財の販売動向を乗用車（軽を含む。）の新車新規登録台数でみると、9月は4,192台で前年同月比2.9%減の後、10月は2,703台で同26.3%減となった。また、家計調査によると、7 - 9月期の平均消費支出（二人以上の世帯）は299,125円で、実質で前年同期比5.5%減となった。

(3)住宅建設

住宅建設は、持ち直している。新設住宅着工戸数は、8月は総戸数410戸（前年同月比6.2%増）の後、9月は総戸数443戸（同22.0%増）であった。内訳をみると、持家は299戸で同12.4%増、貸家は128戸で同58.0%増、分譲住宅は15戸で同7.1%増などとなっている。

(4) 設備投資

設備投資は、持ち直しつつある。日本銀行金沢支店「北陸3県企業短期経済観測調査」（22年9月調査）により、22年度設備投資計画をみると、全産業で前年度比23.3%増となった（石油製品、電気・ガスを除く。）。内訳は、製造業で前年度比32.2%増、非製造業で同0.6%減となった。

(5) 公共投資

公共投資は、底堅い動きとなっている。公共工事前払金保証事業統計（北海道建設業信用保証㈱、東日本建設業保証㈱、西日本建設業保証㈱調べ）で公共工事請負金額をみると、8月は120億56百万円で前年同月比7.6%増の後、9月は167億14百万円で同1.7%減となった。

(6) 生産

鉱工業生産の動きをみると、生産は、緩やかに持ち直している。鉱工業生産指数（平成17年＝100、季節調整済）は、7月に87.3となった後、8月は91.1（前年同月比25.5%上昇）と前月比4.4%上昇となった。業種別に動き（前月比）をみると、化学工業、電気機械工業など8業種が上昇し、窯業・土石製品工業、その他工業など5業種が低下となった。

鉱工業生産者製品在庫指数は、7月に82.6となった後、8月は前月比2.3%上昇の84.5（前年同月比7.0%低下）となった。これは、化学工業、繊維工業など7業種が上昇、鉄鋼業、金属製品工業など5業種が低下、食料品工業の1業種が横ばいとなったためである。

(7) 雇用情勢

雇用情勢は、有効求人倍率が0.7倍台前半で推移するなど、依然として厳しい状況にある。月間有効求人数（パート含む。）は、9月16,383人（前年同月比26.0%増）、月間有効求職者数（パート含む。）は、9月21,161人（同14.5%減）となった。有効求人倍率（季節調整済）は、8月0.71倍の後、9月も0.71倍の同率となった。常用雇用指数（平成17年＝100、全産業：事業所規模30人以上）は、7月に112.3となった後、8月も112.3（前年同月比2.4%増）となった。所定外労働時間指数（製造業：事業所規模30人以上）をみると、7月に前年同月比47.6%増の後、8月は同41.6%増となった。現金給与総額は、事業所規模5人以上では、7月に前年同月比2.1%増となった後、8月は同2.0%減となった。

(8) 企業倒産

企業倒産は、件数は二桁台で推移し、負債総額は前年同月に比べ増加している。企業倒産（負債額1,000万円以上、東京商工リサーチ富山支店調）の状況をみると、9月に10件、負債総額21億51百万円（前年同月：14件、18億65百万円）の後、10月の件数は11件、負債総額は、24億63百万円（同18件、15億99百万円）となった。

業種別では、製造業が5件、建設業が2件、サービス業が2件、小売業、情報通信が各1件であった。破綻原因別では、販売不振、既往のしわ寄せなど不況型倒産が10件、設備投資過大が1件であった。

(9) 物価

消費者物価は、緩やかな下落が続いている。富山市の消費者物価指数（平成17年＝100）をみると、総合指数は、8月は98.5で前月比0.5%上昇（前年同月比1.5%下落）となった後、9月は98.4で前月比0.1%下落（同1.3%下落）となった。前月比0.1%下落の主な要因としては、「被服及び履物」、「家具・家事用品」などが上昇したものの、「食料」、「交通・通信」などが下落したため。また、生鮮食品を除く総合は97.8で、前月比0.2%上昇（前年同月比2.0%下落）、生鮮食品は111.7で、前月比7.9%下落（前年同月比16.0%上昇）となっている。

(10) その他の動き

① 工業の動き（9月～10月）

| 業種別 | 企業ヒアリングの特徴点 |
|--------|--|
| 一般機械 | 自動車産業、航空機産業向けの軸受、工作機械、工具については、生産、出荷ともに増加となっている。ロボット関連については、生産は若干増加、出荷は横ばいとなっている。 |
| 電子電気機械 | 半導体関連、電子機器等については、生産、出荷ともに増加となっている。変圧器、配電盤については、生産、出荷ともに横ばいとなっている。 |
| 輸送機械 | 生産については、減少となっている。また、原材料価格については、横ばいとなっている。 |
| 金属製品 | アルミニウム建材については、生産、出荷ともに増加となっている。民生用包装容器については、生産、出荷ともにおおむね横ばいとなっている。 |
| 非鉄金属 | 売上げについては、増加となっている。また、原材料価格については、値上がりの傾向がある。 |
| 鉄鋼 | 特殊鋼については、生産、出荷ともに増加となっている。 |

| 業種別 | 企業ヒアリングの特徴点 |
|---------------|--|
| 化学 | 基礎化学品、農業化学品、機能化学品については、生産は増加となっている。原材料価格については、値下がり傾向がある。医薬品については、生産は減少、出荷は増加となっている。 |
| 紙・パルプ 印刷紙器 | 包装用紙等については、生産、出荷ともに若干増加している。原材料価格については、値下がり傾向がある。 |
| 木材・木製品 | 需要については、国産材、北洋材ともに多少荷動きあり。供給については、国産材は先月並み、北洋材は入荷が少なく特に半製品がない。価格については、現況は、国産材、北洋材ともに横ばい傾向。先行きは、不透明。県産材の受注増加傾向。 |
| プラスチック | 車両関連、通信機器関連については、生産、出荷ともに減少となっている。家庭用品については、生産は若干増加、園芸用品、工業製品については、生産は減少となっている。原材料価格については、横ばいとなっている。 |
| 情報サービス | 受注については、経済状況の悪化により情報化投資が抑制され、減少となっている。 |
| 繊維 | 生産、出荷ともに若干増加となっている。製品価格、原材料価格については、ともに横ばいとなっている。 |

② 労働市場（富山労働局職業安定課調）

9月の富山県の雇用失業情勢をみると、新規求人数（パート含む。）は6,741人で、前年同月比22.0%増となった。主要産業別に新規求人の動きをみると、製造業（49.9%増）、運輸業、郵便業（38.0%増）、建設業（12.4%増）などで増加し、情報通信業（16.7%減）、生活関連サービス業、娯楽業（1.8%減）などで減少した。また、新規求職申込件数（パート含む。）は5,494件で、前年同月比8.8%増となった。

労働力需給の趨勢を有効求人倍率（季節調整値）でみると、9月は0.71倍となり、前月と同率、前年同月比で0.23ポイント増加となった。

③ 近年の企業立地動向

| 区分 | | 17年 | 18年 | 19年 | 20年 | 21年 |
|----------|----|-------|-------|-------|-------|-------|
| 件数（件） | 富山 | 32 | 36 | 38 | 33 | 16 |
| | 全国 | 1,544 | 1,782 | 1,791 | 1,630 | 867 |
| 敷地面積（ha） | 富山 | 41 | 58 | 48 | 30 | 14 |
| | 全国 | 2,298 | 2,365 | 2,741 | 2,180 | 1,343 |

・ 主要企業用地の分譲状況

| | | |
|--------------|---------|---------------------------|
| 富山新港臨海工業用地 | 426.8ha | (うち分譲済 413.1ha、分譲率 96.8%) |
| 富山八尾中核工業団地 | 102.2ha | (うち分譲済 81.1ha、分譲率 79.4%) |
| 高岡オフィスパーク | 9.6ha | (うち分譲済 5.5ha、分譲率 57.6%) |
| 小矢部フロンティアパーク | 12.7ha | (うち分譲済 8.5ha、分譲率 66.9%) |

・ 最近の主な立地企業 (平成19年以降、増設を含む)

| 企業名 | | 業種 | 竣工 操業開始 年月 |
|--------------------------|------|------------------|------------------|
| シャープ(株) | 富山市 | 太陽電池用シリコン | 19年1月 |
| 東亜薬品(株)粉末吸入剤工場 | 富山市 | 医薬品 | 19年3月 |
| スズキ工業(株) | 小矢部市 | 金型 | 19年4月 |
| (株)オプテス富山工場氷見製造部 | 氷見市 | 光学フィルム | 19年9月 |
| ダイト(株) (第5原薬棟、第3包装棟) | 富山市 | 医薬品 | 19年9、10月 |
| ファインネクス(株) (上条工場増設) | 富山市 | 電子部品 | 19年9月 |
| 富士ゼロックスマニュファクチャリング(株)第3棟 | 滑川市 | 化学工業 (トナー) | 19年12月 |
| リードケミカル(株)久金工場 | 上市町 | 医薬品 | 20年3月 |
| 香栄興業(株)富山工場 | 富山市 | 香料 | 20年4月 |
| 朝日印刷(株)富山東工場 | 富山市 | 医薬品・化粧品向け包装資材 | 20年7月 |
| 日東メディック(株) | 富山市 | 医薬品 | 20年9月 |
| ダイト(株) (第6製剤棟) | 富山市 | 医薬品 | 20年10月 |
| (株)ウーケ富山入善工場 | 入善町 | 食料品 (無菌包装米飯) | 21年1月 |
| ユケン工業(株) | 小矢部市 | 金属表面処理剤等 | 21年1月 |
| 中越パルプ工業(株) (本社機能の移転) | 高岡市 | 紙・パルプ | 21年3月 |
| アイシン新和(株) | 入善町 | 自動車向けディスクブレーキ用部品 | 21年4月 |
| 日本電工(株) | 高岡市 | リチウムイオン電池材料 | 22年1月 |
| 日医工(株)滑川第一工場 | 滑川市 | 医薬品 | 22年2月 |
| (株)廣貫堂 | 富山市 | 医薬品 | 22年4月 |
| コマツキャストテックス(株) | 氷見市 | 建設機械の鋳鉄部品 | 22年5月 |
| 三菱ふそうバス製造(株) | 富山市 | バス | 22年6月 |
| 富山化学工業(株) | 富山市 | 医薬品 | 22年7月 |